松任中川一政記念美術館 開館40周年記念特別展
記念俳句会 ～俳人 大高 翔さんをお迎えして～

令和8年 11月1日（日）白山市立松任中川一政記念美術館
千代女の里俳句館

【大高翔 特選 三句】

絶筆の縁取りは黒冬雲雀　　幸子
秋薔薇のにほひにふつと筆止まる　　容子
紅葉連れ一政の部屋訪ねをり　　邦子

うら山に孤影を曳けり一位の実　　勝
力動さ壁を見つめて静かなり　　一朗
大漁に弾む漁師や山粧ふ　　明美
こそよけれ絵の具散る散る師走かな　　純一
塗り削る絵の具の深さ冬銀河　　敬子
椿咲き心静かに時を待つ　　海洲
凛秋や志見る墨運び　　まりりん婆
鼓動する一政の絵や冬怒涛　　哲夫
まだ描きぬまだ描きたらぬ秋薔薇　　外美
美術展覧会薔薇も花瓶も主役かな　　朝子
咽せ返る草木の生命山滴る　　直美
客人にぷいと背を向くチューリップ　　将生
夜の秋李朝の壺の肩まろし　　恵子
鳥も虫も草や木もみな春が来た　　ゆうこ
画に残す命の赤や時雨寒　　久美子
画中の壺奥のアトリエ柘榴の実　　月濡れ

深秋や画架にも色の散り積もる　　翔